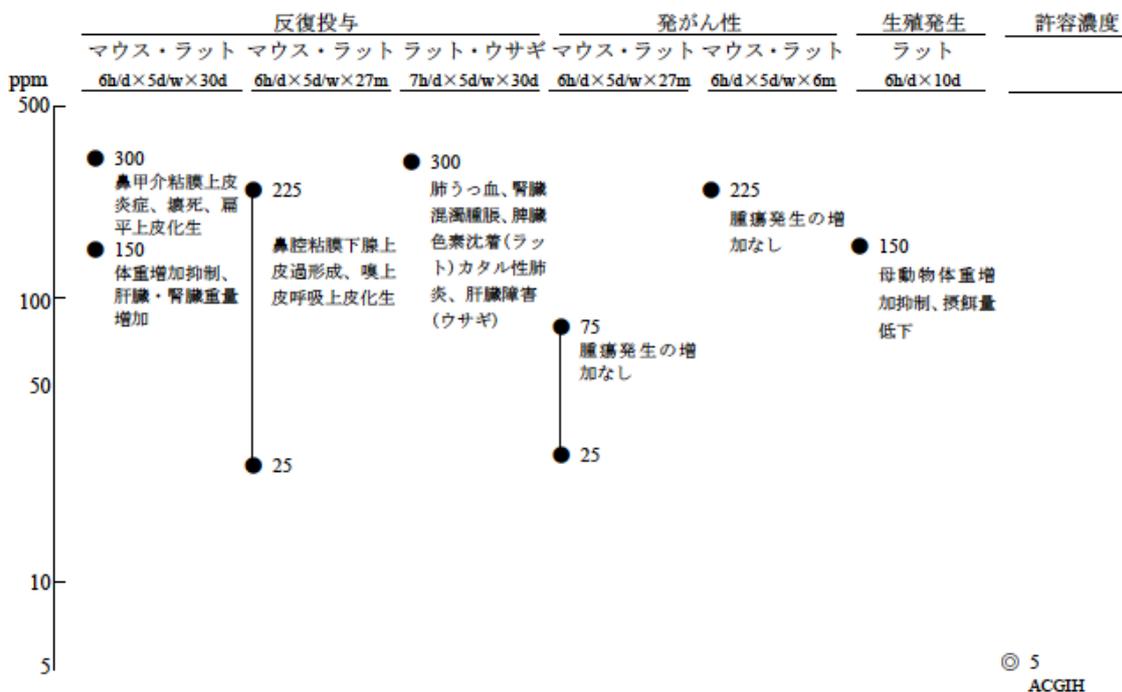


ほ乳動物毒性図(吸入暴露)



ヒトへの影響

アクリル酸エチルに関して3つの集団での調査が行われている。1つはアクリル酸エチルとメタクリル酸メチルの生産工場における調査で、1933年から1945年までに雇われた白人男性3,934名のうち43人が結腸癌、10人が直腸癌で死亡しており、アクリル酸エチルとメタクリル酸メチルにばく露していた労働者では地域住民とくらべて結腸癌の発生率の増加がみられている。しかし、同じ工場で1946年から1986年までに雇われた6,548人の白人男性についての調査と、別の工場(アクリルガスを生産)で1943年から1982年までに雇われた3,381人の白人男性についての調査では、結腸及び直腸癌の増加はみられていない。また、両工場共に呼吸器系癌の発生はみられていない。このアクリル酸エチル及びメタクリル酸メチルのばく露と結腸、直腸癌との相関は、実験動物での発がん性試験の結果及びアクリル酸エチルの活性についてのデータと一致しないことから、結論できないとされている。

発がん性評価 (2009年7月31日確認)

IARC 2B: ヒトに対して発がん性の可能性がある⁸⁾

ACGIH A4: ヒト発がん性物質として分類できない⁴⁾

日本産業衛生学会 第2群B: 人間に対しておそらく発がん性があると考えられる物質で、証拠が比較的十分でない物質⁷⁾

キ 生殖毒性¹⁾

(1) 吸入ばく露

ラットに50、150 ppmを6時間/日で妊娠6日から15日までの10日間ばく露した実験で、150 ppmで母